



# 東京学芸大学・環境教育研究センター附属教材植物園

## 教材植物園をフィールドとした 環境教育の展開

東京学芸大学

環境教育研究センター

FSIFEE

Field Studies Institute for Environmental Education



自然と共生していく人間の知恵を育む

ホーム

センター概要

プロジェクト

農園

フィールド体験を重視した多彩な授業を提供。環境教育の理論と応用研究を推進。学校や地域と連携しながら、環境教育に関する様々なプロジェクトを展開（例：国際的な環境教育プログラムGLOBE）。

# 教材植物園での主な取り組み内容

- コンセプトは「**武蔵野の里山景観**」。様々な土地利用が混在する**モザイク性の高い景観**を形成。
- 様々な**環境教育・自然体験学習を实践**。地域に開かれた**管理・運営**を展開。



畑・クヌギ林・コナラ林・常緑樹林（屋敷林）・竹林・水田・茶園・梅園・池・広場  
1.5haの中に、様々な構成要素が存在。

1949年：旧師範学校が東京学芸大学として統合（主に、職業科教育課程農学専修で農場として活用）  
1987年：野外教育実習施設の設置、1988年：教養系自然環境科学課程の設置  
1994年：環境教育実践施設へ改組、2000年：環境教育専攻（現環境教育選修）の設置  
2011年：環境教育研究センターに改称、現在に至る

# 社会課題の解決 / 人間の幸福への貢献

- **地域の人々の散策の場として開放**→**地域住民の健康・福利・学びの充実、地域コミュニティ形成**
  - ✓ 希少な生き物を地域の人々が直接観察したり、触れ合うことができる場。
  - ✓ 季節の移り変わりや自然の恵み（栽培種・野生種）を直接的に実感できる場。
  - ✓ 来園者間での交流の場。
- **地域の子どもたちの体験活動等の積極的な受け入れ**→**子どもの福祉、自然体験の充実**
  - ✓ 地域の自然の中での学びと成長をサポート。家庭と学校以外の第三の居場所としての機能も。
- **園内の物質循環を意識した管理**→**廃棄物、CO<sub>2</sub>排出削減への寄与**
  - ✓ 落葉・落枝や作物残渣などを廃棄せず、堆肥化し有機肥料や燃料等として活用
- **緑地そのものが持つ機能の充実**→**ヒートアイランドの抑制、防災・減災への貢献**
  - ✓ 樹林地、水辺、農地（畑・水田）の一体的な管理、まとまった面積の確保。

↓

地域全体の魅力向上・  
都市機能の向上



# 生物多様性への貢献

## ● 園内の生物多様性の特徴

- ✓ 季節を通じて維持されている**良好な水辺環境（水田・池）**の存在：  
東京都の絶滅危惧種（アオイトトンボ、ニホンアカガエル、ホシクサ、アブノメなど）が生息。
- ✓ 草刈りの頻度が異なる草地や樹林地の存在 & 農薬や除草剤を使用しない管理：  
**攪乱強度が異なるモザイク性の高い生息地**が存在することで、多様な昆虫類（200種以上）が生息。鳥類も25種以上確認。
- ✓ 東京都の多摩地区の**生態系ネットワークの拠点**の1つ。コアエリアとしての機能。

## ● 「自然共生サイト」（環境省）への認定

- ✓ 生物多様性保全への寄与が評価され、2023年度（後期）に認定を受ける。

## ● 継続的な生物相モニタリング調査の実施

- ✓ 授業やゼミ活動などを通じたモニタリング調査を実施。環境教育を展開する外部の連携機関による生き物観察会等も開催。生物分布データを蓄積。



オオタカによるヒヨドリの捕食の様子



園内に生息するニホンアカガエル



アオイトトンボの繁殖行動

# 今後の展望

- 環境教育に携わる様々な機関と連携し、**体験学習プログラムの開発・発信や、体験学習の場の提供**を促進する。
- 動植物相の多様性を維持し向上させていくための**適切な管理を継続**。
- 他の「**自然共生サイト**」などとの**連携**を深め、他機関の取り組み事例をもとに、新たな事業や学習プログラムを導入する。



「**教材植物園**」という自然を基盤として、  
様々な社会課題の解決へ貢献する。

*Nature-based Solutions*